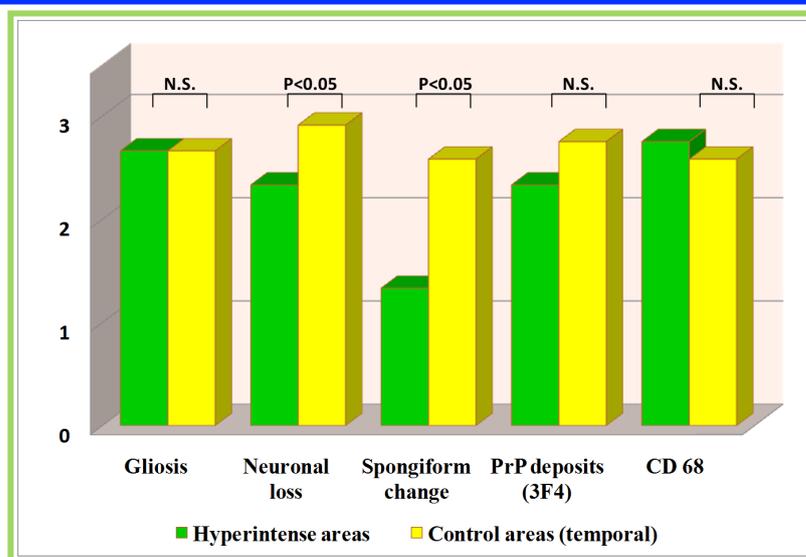
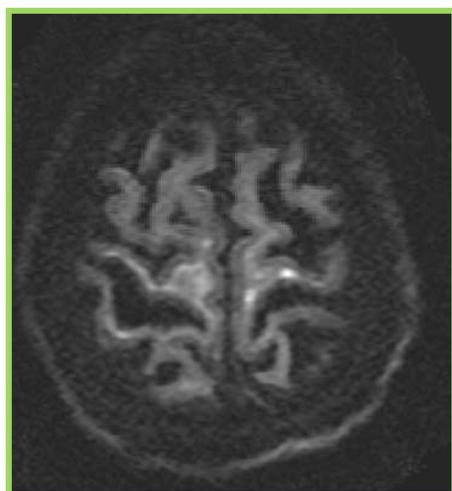


オートプシーイメージングとプリオン病の神経病理学  
プリオン病剖検率の向上のために

研究分担者: 東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク 高尾昌樹



剖検率向上のためへの貢献

1. 剖検ができない他施設から3例を当院の車で搬送し剖検
  - 2例がCJD, 1例は臨床診断CJDだが虚血性脳症
2. 他施設からの剖検脳検索依頼
  - プリオン病疑い4例中, 3例がCJD, 1例は脳血管疾患.
3. 他疾患で依頼された中で偶然にCJDとGSSを発見
4. 施設に保管されていたCJD疑い例を組織的に確定

解説

1. 死亡時MRI拡散強調画像で高信号を呈する部位は中心前回が多く, 同部位は神経細胞脱落や空胞変性はむしろ軽く, 既存データと異なる.
2. 剖検率向上のために, 症例蓄積を積極的に行い, 確定診断をすることで医療関係者, 公衆衛生学的見地からも貢献. 今後は維持費用が問題.